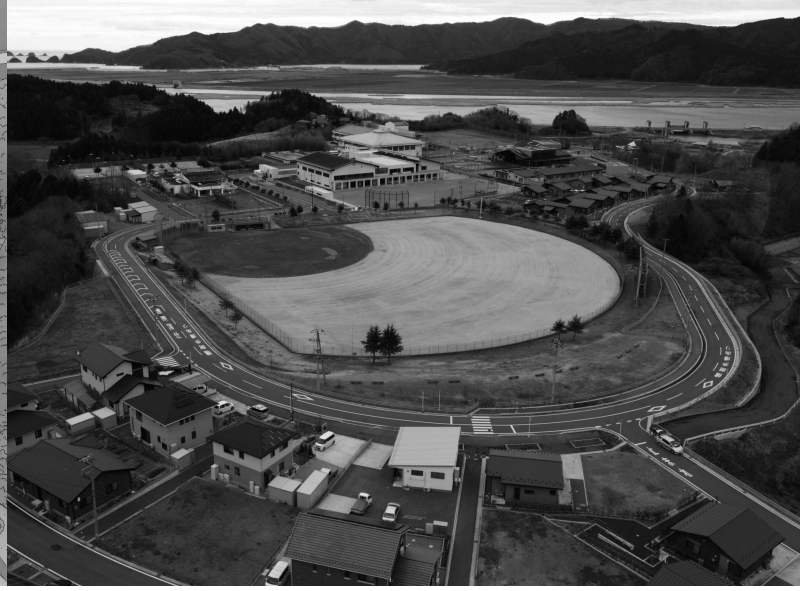


# 石巻市北上町にっこり団地におけるまちづくり

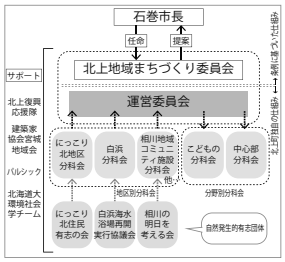
石巻市北上町は、「契約講」による地域自治の仕組みが日常生活に残り、地縁組織が山林などを所有し共同管理する関係を今も保持している地域である。東日本大震災により大きな被害を受けたこの地域においては「地域の自治技能」を活かした復興こそが未来へと繋がる一筋の光明だと思われた。そこで私たちは住民による意思決定を復興業務と繋ぐ仕組みをつくることを意図し、一連のまちづくり活動（計画支援）を実施した。

## 「住民主体」を実現する仕組みづくり

### 地域全体の意思決定と復興事業を結ぶ仕組み

**…まちづくり委員会とまちづくり分科会**

復興事業に地域住民の意思を反映する仕組みとして広域合併時に定められた「北上地域まちづくり委員会」を立ち上げ直し、その下部組織として特定の課題に取り組む「まちづくり分科会」を設置した。このことにより各地区や課題ごとの実情を踏まえた議論が可能となった。各分科会での成果（防集団地、拠点施設、低平地利用などの計画）はまちづくり委員会で決議し市長に提案され、結果的にほぼすべての提案が実現した。

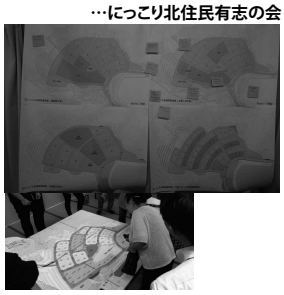



### 住民自らが地域生活と運営を考え形にする仕組み

**…にっこり北住民有志の会**

住宅団地全体の計画から公営住宅と自力再建住宅の住み分け方、「誰がどこに住むか」を地域全員で決断する試み、公営住宅入居者が合流してからは新たな自治会の立ち上げや集会所の計画まで、全て地域住民の主体的話し合いにより決定するためのサポートを行った。

「公営住宅と自力再建住宅の住み分け」など、通常では住民主体で議論しない内容にまで踏み込んで、検討を行った。



### 相互扶助と相互見守りの仕組みを形にする

**…にっこり団地復興公営住宅**

全入居希望者を対象に個別ヒアリングを行った結果、みまもりを重視した長屋タイプに多くの入居希望があり、また「お互いに面倒を見合うので一緒に入居させてほしい」という計画の柱となる「グループ入居」等の要望が掘り起こされた。グループ入居に対応したクラスター型の配置や縁側を介しての交流を再現した見守り空間など、計画の骨格は入居者WSと復興住宅課を往復しながらまとめられ、公営住宅では一般的ではないことだが「誰がどこに住むか」を決定するところまで一体的にサポートを行った。

## 住民活動の舞台となる空間づくり

### にっこり北住宅団地

南側に小高い丘があり、南東方向の追波湾に向けて開けた元の地形を素直に受け入れた扇型の配置と、追波湾に向けた視線の抜けを意識した放射状の緑道という基本構成は、にっこり団地全体の計画変更によって公営住宅が合流しても踏襲された。自力再建住宅と公営住宅がうまく混ざりあうよう意図し、中心の集会所を挟むように公営住宅を配置している。

完成　2016年4月

### にっこり自治会集会所

完成　2016年3月
設計施工　佐々木泰雄工務店
基本設計支援　JIA宮城北上支援チーム

### にっこり北復興公営住宅

戸建てタイプの復興公営住宅だが、北上町独自のプランとなっており、防集事業で設けられた歩行者緑道と連携して歩行者ネットワークをするフットパスが設けられている。

完成　2017年4月
設計施工　石巻地元工務店協同組合
基本設計支援　JIA宮城北上支援チーム



### にっこり南復興公営住宅

単身高齢の入居者が多く長屋タイプへの要望が多かった北上町の特徴を基に、見守りを重視した緑道のネットワークや、グループ入居に対応したクラスター型の配置など、縁側を介しての交流を再現した見守り空間を実現している。

完成　2017年6月
設計施工　石巻地元工務店協同組合
基本設計支援　JIA宮城北上支援チーム

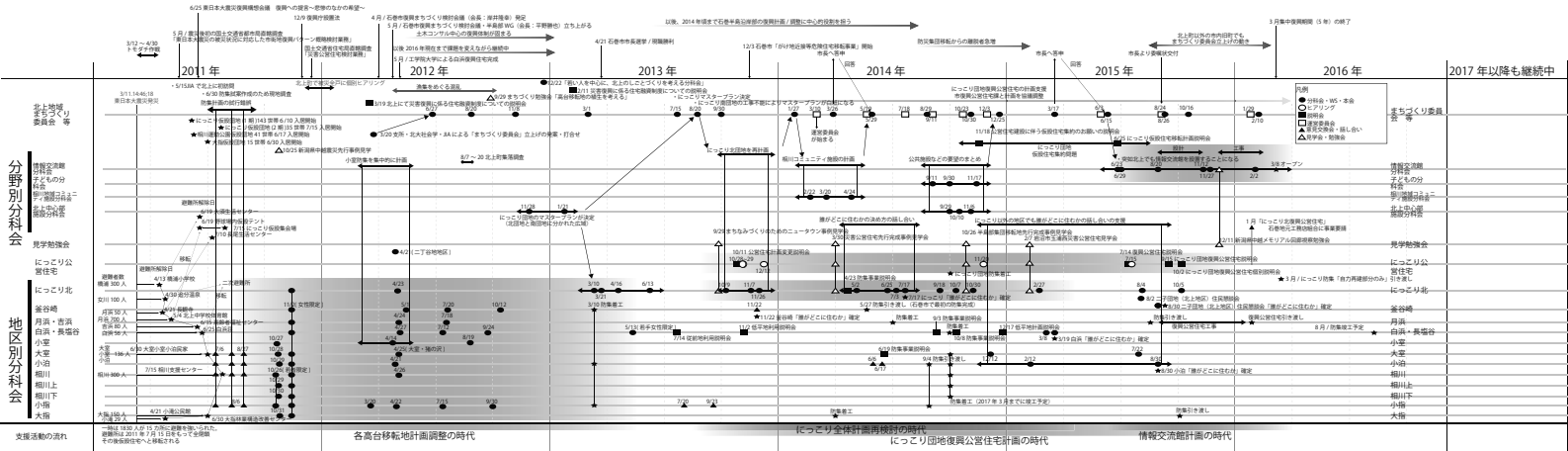


### にっこり地区拠点施設

まちづくり委員会の分科会として「北上中心部分科会」を設置し検討が行われた。2014年10月10日の第二回分科会にて、南・西・北まで三方に開き、東側にバックヤードを集約させる方針や、各室の大まかな配置が配置図上に切り貼りされて決定した。この「切り貼り図」はそのまま市長に提案され、ほぼそのまま実現した。

完成　2020年3月
設計　大建設計
基本計画支援　JIA宮城北上支援チーム



にっこり地区全体配置図
S=1:1,500

## 2016年頃までの活動年表